

地域畜産振興部門

北海道浦幌町

浦幌町模範牧場

(代表：水澤 一廣)

集約放牧による公共牧場運営の確立

—効率的な草地管理による経営改善—



浦幌町模範牧場代表である水澤一廣・浦幌町長

浦幌町模範牧場は、当初、地域の酪農振興のため設置され、酪農経営における後継育成牛の預託受け入れにより、浦幌町の乳牛増頭に大きく貢献してきた。加えて、その後の浦幌地区畜産基地整備事業の実施による各酪農家の増頭においても大きな役割を果たしてきた。またこのことが、結果的には撤退してしまったものの、当時地元で操業していた大手乳業メーカーの工場の存続に一役買っていたといえる。

しかしながら、この酪農振興のための牧場という意味あいはいくらか変化しつつあるのが現状である。公共牧場による地域の酪農振興が功を奏して、町内での乳牛増頭、乳量の増産はある程度達成された。そのため、各酪農家の規模拡大による労働力不足や飼料不足を補う補完施設としての役割が増してきている。

さらに、平成12年度より町内酪農家より希望のあった哺育牛の受け入れを始め、受精卵移植の希望を受入れ実施するなど、地域酪農家のニーズに対応すべく運営を行っており、このことから、平成12年以降は預託頭数が増加している。

このような公共牧場の目的を達成するためには、牧場の運営体制が確立されていなければならない。すなわち、経営が黒字にならないと、牧場の存在そのものが危うくなる。同牧場は平成14年度から黒字経営に転じているが、その達成のためには次のような手法を用いてきた。

①肥料を抑制した草地の適正管理および80頭程度の群管理に制御した放牧管理体制により、放牧コストの削減と適正な飼養管理体制の構築に成功。個体管理とあわせて、模範的放牧システムの確立につながった。

②年間の作業計画を基本に、コンピュータを

用いた日報形式の労働力管理システムを導入。職員の意識向上に結びつけるとともに、データの分析を行って効果的な労務管理を実践した。

③預託牛への付加的サービスとして、入退牧時の運搬サービス、哺育段階からの預託育成に取り組み、預託農家の負担軽減と規模拡大を支援するとともに、入牧頭数の増加や預託期間の延長を図り、経営の拡大につなげた。

④牛舎に発酵牛床を採用して敷料の削減を図るとともにコントラクターやリース事業の活用による施設（機械）コストを削減した。

⑤下水道処理施設と連携した活性汚泥利用による良質たい肥の生産を行い、草地の計画的土作りに結びつけた地域内循環型農業を実践した。

加えて、浦幌町模範牧場での経営改善の重要なポイントの一つが集約放牧である。ニュージーランドで行われている集約放牧を参考に導入したところ、草地収量の増加、乳牛の増体の改善、肥料代や飼料代の減少などの効果が生まれた。

その結果、導入当時の課題であった放牧面積の不足などが改善できた。加えて、牧草に対する飼料としての意識が高まり、資源循環を踏まえたたい肥づくりを心掛けるようになった。

また、地域の小中学校の総合的学習の一環として、体験型学習の場として教育ファームに取り組みしており、公的農業機関としての地域連携活動にも力を入れている。

以上のような取り組みを行うことで、全国的にも希少な黒字経営を実現するとともに、地域畜産の核となる施設として預託農家から高い信頼を受けており、地域酪農の振興に大きく寄与している。

活動のようす



▲平成 12 年度から哺育牛の受け入れ開始したことにより預託頭数が増加した



◀ 哺乳の体験指導



▲地元小学生に酪農体験の仕事を説明する場長



◀ 胃の動く音、体の温もり等牛とのふれあい体験



◀ 哺乳の体験指導



▲左から三宅英彰浦幌町模範牧場長と水澤一廣浦幌町長